

九州看護福祉大学

公開授業「社会福祉 特講」のお知らせ 3

主催 九州看護福祉大学 社会福祉学科

玉名市富尾 888 電話 0968 75 1800

木曜、午後一時十分から九〇分間、413教室

日 程	講 義 題 目	講 師 / 学内対応者
6月17日 木曜、午後一時十分	施設を出てまちで暮らす ↳ 障害のある人が 生きるということ	山下 紘史 氏 (ヒューマンネット熊本) / 平川泰士 助教
6月24日 同	若年性認知症の家族を 介護して思うこと	福本 親康 氏 (認知症の人と家族の会熊本支部) / 後藤秀昭 准教授
7月 1日 同	精神科疾患とつきあい、いきる	徳山 大英 氏 (熊本県精神障害者連合会長) / 茶屋道拓哉専任講師
7月 8日 同	不登校の子どもの声と 支援について	藤岡 耕子 氏 (チャイルドラインくまもと代表) / 茶屋道拓哉専任講師
7月15日 同	ホームレスの人への支援	嶋本 勝博 氏 (熊本ホームレス自立支援の会) / 平川泰士 助教

九州看護福祉大学ではおもに社会福祉学科の新生を対象として、現下の日本で生起している「社会問題」に関して、その「当事者」の方を外部講師として招聘し、「特別講義1」を開いてきました。

地域市民も聴講可能な、「公開授業」の形態を採用して、平成一九年から開始し、「創設期」を脱して、いよいよ四年目に入ってゆきます。

前半にはハンセン病、薬害C型肝炎の問題について、「生命の危険と人権の侵害にさらされ、混乱をきたし、放置された」当事者から不作為問題として語って頂きました。後半は「社会的排除」をキー概念として、身体や精神に障害のある本人、若年性認知症の人を介護する家族、不登校児童・生徒の保護者、ホームレスの人を支援する人等から、わが国の現行の制度のなかで、どのような生活を強いられてきたのか、また、これからどのような暮らしを送っていくことが望まれているか、どんな支援・施策が必要かについて語って頂きます。

障害のある人やその家族の問題として捉えることなく、将来、支援者として「当事者」になる学生、ともに地域で暮らす市民として、当事者のメッセージを手がかりに内外に潜む「社会的排除の構造」を意識化し、これをどのように教育と研究へと受け止め直し、市民とともに「支援の可能性」に関わるのかという課題に向き合います。

広く、本学の教職員、各学科の学生、および地域市民の多くの方々の聴講を期待いたします。

九州看護福祉大学

公開授業「社会福祉 特講」のお知らせ 2

主催〓九州看護福祉大学 社会福祉学科
玉名市富尾八八八 電話0968 75 1800
木曜、午後一時十分から九〇分間、四一三番大教室

日 程	講 義 題 目	講 師 名 / 学内対応者
第四講 5月13日 木曜、午後一時十分	現代日本の作為と不作為	山本 務 教授
第五講 5月20日 同	ハンセン病問題を生きる	中 修一氏 / 山本 務 教授
第六講 5月27日 同	薬害C型肝炎問題から B型肝炎問題へ	小林 邦丘氏 / 山本 務 教授
第七講 6月3日 同	薬害C型肝炎原告者の現在	出田 妙子氏 / 山本 務 教授

以下、「水俣病胎児性患者の現在」も予定しています。また後半部として、「社会的排除」をキーワードとして、「認知症高齢の家族」「身体や精神にしようがいのある人」「不登校の子どもの親」「ホームレスの人（あるいは、その支援者）」（以上、予定）から、しようがいをもって生きること、社会との関わりの中での生きづらさを語って頂きます。日程が決まり次第、本掲示によってお知らせいたします。

〓 講義目的〓

「失語症の児（こ）の身振り語に拍手起き緊張ほぐるる公開授業」（「朝日歌壇」長谷川安子）九州看護福祉大学ではおもに社会福祉学科の新生活を対象として、現下の日本で生起している「社会問題」に関して、その「当事者」の方を外部講師として招聘し、「特別講義1」を開いてきました。「生命の危険と人権の侵害にさらされ、混乱をきたし、放置された者」が、それぞれの問題の渦中から立ち上がり、支援を訴え、広く社会的承認を獲得するに至った過程から投げかける声を聴き取り、これをどのようにに教育と研究へと受け止め直し、市民とともに「支援の可能性」に関わるのかという課題に向き合います。

地域市民も聴講可能な、「公開授業」の形態を採用して、平成一九年から開始し、「創設期」を脱して、いよいよ四年目に入ってゆきます。

第四講で三つの「社会問題」に共通する特徴を「作為と不作為」の考え方から示し、次いでハンセン病回復者で社会復帰の道歩む中氏、また薬害C型肝炎の原告者お二人に語って頂きます。広く、本学の教職員、各学科の学生、および地域市民の多くの方々の聴講を期待いたします。

（文責、問い合わせ先、本学 山本 務研究室 電話0968 75 1860）

九州看護福祉大学

公開授業「社会福祉 特講」のお知らせ 1

主催〓九州看護福祉大学 社会福祉学科

玉名市富尾八八八 電話0968 75 1800

木曜、午後一時十分から九〇分間、四一三番大教室

日 程	講 義 題 目	講 師 名 / 学 内 対 応 者
第一講 4月15日 木曜、午後一時十分	社会福祉特講1が目指すもの	佐藤 林正 教授
第二講 4月22日 同	ハンセン病問題とはなにか	志村 康氏 (菊池恵楓園自治会副会長) / 山本 務 教授
第三講 5月6日 同	ハンセン病問題と地域共生	志村 康氏 (菊池恵楓園自治会副会長) / 山本 務 教授

以下、「ハンセン病問題を生きる 療養所の内と外」「水俣病胎児性患者の現在」「薬害肝炎問題の現在」を予定しています。また後半部として、「社会的排除」をキーワードとして、「認知症高齢の家族」「身体や精神にしようがいのある人」「不登校の子どもの親」「ホームレスの人(あるいは、その支援者)」「(以上、予定)から、しようがいをもって生きること、社会との関わりの中での生きづらさを語って頂きます。日程が決まり次第、本掲示によってお知らせいたします。

〓講義目的〓

「失語症の児(こ)の身振り語に拍子起緊張ほぐる公開授業」(「朝日歌壇」長谷川安子)

九州看護福祉大学ではおもに社会福祉学科の新生入生を対象として、現下の日本で生起している「社会問題」に関して、その「当事者」の方を外語講師として招聘し、「特別講義1」を開いてきました。「生命の危険と人権の侵害にさらされ、混乱をきたし、放置された者」が、それぞれの問題の渦中から立ち上がり、支援を訴え、広く社会的承認を獲得するに至った過程から投げかける声を聴き取り、これをどのようにに教育と研究へと受け止め直し、市民とともに「支援の可能性」に関わるのかという課題に向き合います。

地域市民も聴講可能な、「公開授業」の形態を採用して、平成一九年から開始し、「創設期」を脱して、いよいよ四年目に入ってゆきます。

第一講では、本講義が全体として目指すものを、佐藤先生が、俯瞰的に語ります。「健康」問題を、「保健社会学」という学問分野の立場から、展望します。

第二、第三講では、ハンセン病問題を「憲法問題」「人権問題」の視点から貫いたハンセン病回復者志村氏に、地域市民との共生という現実に向かう途上の課題などを語って頂きます。

広く、本学の教職員、各学科の学生、および地域市民の多くの方々の聴講を期待いたします。

(文責、問い合わせ先、本学 山本 務研究室 電話0968 75 1860)